【解　答】

十二指腸乳頭部腫瘍

解説：

急性膵炎の原因として，本邦ではアルコールと胆石が2大成因であり，男性ではアルコール性が最も多く，女性では胆石性が多い．その他の原因として脂質異常症，外傷による膵管損傷，膵管癒合不全，自己免疫性，膵胆道系腫瘍などが考えられる[1]．

急性膵炎においては原因により治療法が異なるため，原因検索を行うことは重要である．本症例は当院紹介以前に原因精査は行われていたが，原因の同定ができていなかったため，膵炎の原因となるような病変の確認目的に内視鏡検査が施行された．

側視鏡観察にて乳頭部は白色調で結節状の隆起を呈しており，ごくわずかの出血をともなっていた．隆起の中に陥凹や潰瘍は認めず，内視鏡所見としては乳頭部腺腫が疑われた（Figure 3）．超音波内視鏡検査では十二指腸乳頭部に膵管内腫瘍性病変が疑われ（Figure 4 黄色円），主膵管内（Figure 4 黄色米印）への進展が疑われた．

同病変が繰り返す膵炎の原因疾患である可能性があり，患者家族との協議の結果，外科的手術（亜全胃温存膵頭十二指腸切除術）が施行された．病理検索ではVater乳頭部内に円柱状の異型上皮の乳頭状，腺管状の増生が認められ（Figure 5），水泡状の高度不整形異型核を有し，複雑な増生を示す上皮が認められることから（Figure 6），IAPN：intra-ampullary papillary-tubular neoplasm（pTis，v0，ly0，PnX0，pDM0，pHM0，pCM0，pPM0，pEM0，pR0）の診断となった．

IAPNは主に膨大部内の乳頭部導管内（Ac，Ab，Ap）や付属腺に増殖する非浸潤性腺系腫瘍（前癌病変，前浸潤癌病変）で，周囲粘膜と明らかに区別が可能で，限局的な乳頭状，ないしポリープ状の外向発育性隆起性病変を形成する腫瘍である[2)〜4)]．

WHO分類2019では，non-invasive pancreatobiliary papillay neoplasm（非浸潤性膵胆道型乳頭状腫瘍）（WHO分類2010・2019）を包括するintra-ampullary papillotubular neoplasm（IAPN）（膨大部内乳頭状管状腫瘍）という概念が記載されている[5)6)]．

PubMedにて“acute pancreatitis”“IAPN”で検索したが，本症例と類似した症例の報告は1例のみであった．医学中央雑誌でも同様のキーワードで検索したところ，該当する報告は認めなかった．

2016年の本邦での全国調査による急性膵炎の成因の割合の報告によると，急性膵炎の成因とし

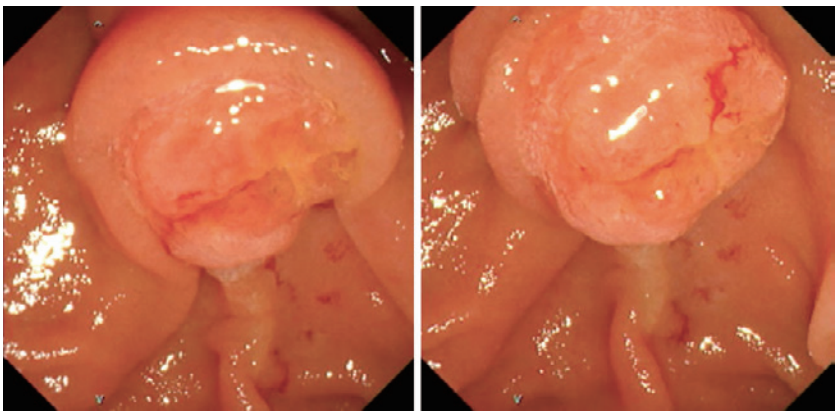

Figure 3.　側視鏡による十二指腸乳頭部評価．

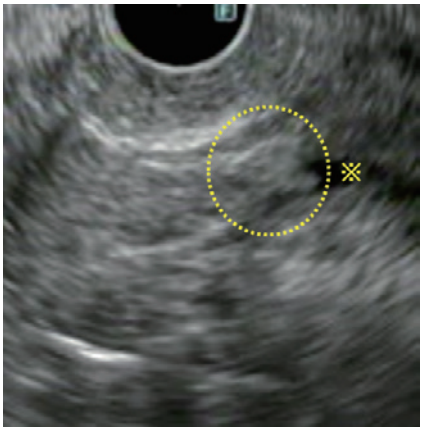

Figure 4. 超音波内視鏡検査による十二指腸乳頭部評価.

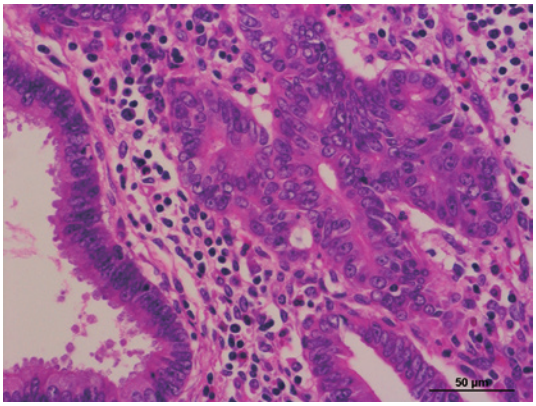

Figure 6. 病理画像（ミクロ）：水泡状の高度不整形異型核を有し，複雑な増生を示す上皮.

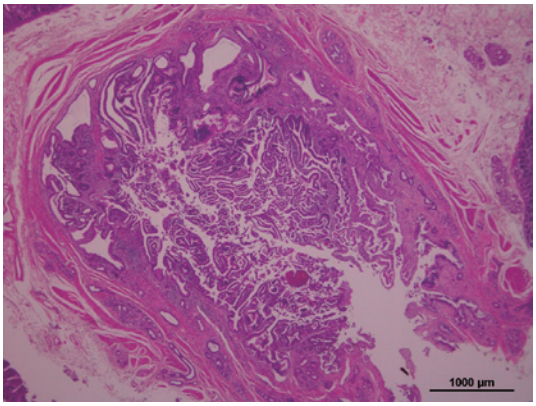

Figure 5. 病理画像（ミクロ）：Vater 乳頭部内の円柱状異型上皮の乳頭状，腺管状の増生.

て膵腫瘍は全体の 3.5%，乳頭部腫瘍を含めた乳頭部の器質的疾患は 0.8%，胆管腫瘍で 0.2%であった．このように，乳頭部腫瘍を含めた胆膵系腫瘍による急性膵炎は急性膵炎全体の約 4.5%程度と考えられる．決して多いというわけではないが，本症例のような原因不明の反復性膵炎症例では，常に胆膵腫瘍の存在を念頭に置く必要がある[4]．

本論文内容に関連する著者の利益相反
：なし

文　献

1）Masamune A, Kikuta K, Hamada S, et al : Collaborators. Nationwide epidemiological survey of autoimmune pancreatitis in Japan in 2016. J Gastroenterol 55 ; 462–470 : 2020
2）大池信之：Vater 乳頭部腫瘍の病理―IAPN および site-specific 亜分類を含めて―．胆道　33 ; 837–853 : 2019
3）Ohike N, Kim GE, Tajiri T, et al : Intra-ampullary papillary-tubular neoplasm (IAPN) : characterization of tumoral intraepithelial neoplasia occurring within the ampulla : a clinicopathologic analysis of 82 cases. Am J Surg Pathol 34 ; 1731–1748 : 2010
4）Ohike N, Adsay V : Intraductal papillary cystic neoplasm of the gallbladder and the ampulla of Vater. Pathology of the Bile Duct, Nakanuma Y, ed, Springer, Singapore, 201–212 : 2017
5）Bosman FT, Carneiro F, Hruban RH, et al : WHO Classification of Tumours of the Digestive System, 4th edition, International Agency for Research on Cancer (IARC), Lyon, 2010
6）WHO Classification of Tumours of the Digestive System, 5th edition, WHO Classification of Tumours Editorial Board, ed, International Agency for Research on Cancer (IARC), Lyon, 2019

論文受領，2025 年 3 月 14 日
受理，2025 年 4 月 4 日